

巻頭言

—安全で安心な診療を目指して—

2023年4月より産婦人科診療科長を務めている市塚清健です。今回は、当院産婦人科で心がけていることや診療内容についてご紹介させていただきます。

当院産婦人科では、女性の一生を取り扱う「女性科」として、妊娠・出産、子宮筋腫や卵巣腫瘍などはもちろん、すべての年代の女性に見られる疾患の診断・治療を通して、“患者さんが心身ともに健康であること”を職員と患者さんの“共通した目標”としています。診療には、患者さんの個々の状況を見極め、大学病院の特徴を活かしながら状況に合わせ産婦人科医師をはじめ、他診療科医師、看護師、助産師、薬剤師、カウンセラーなど様々な職種の職員がチームを形成します。チームのメンバーはそれぞれに形成されたチームが最も有効かつ安全に機能できるよう、それぞれ与えられた役割を責任持って確実に実践できるよう、情報の共有を密に行いながら診療にあたっています。

そしてチームメンバーの中心は“患者さん”であるということを常に意識し、チームメンバーの“共通した目標”に向かって妊娠分娩管理、診断、治療を行います。チームメンバーの中心である患者さんの意思、ご希望などを尊重し、また意思決定ができるように、診断や治療についての説明、情報提供を丁寧に行うよう心がけています。

産科診療においては多くの診療科を有する大学附属病院の特色を生かし、合併症を有する妊娠、分娩管理についてはそれぞれの疾患に合わせ、該当診療科、センターなどの協力をえて診療にあたります。特に生殖年齢女性に比較的多く見られる甲状腺疾患や膠原（こうげん）病などはそれぞれ甲状腺センターや内科の担当医師、最近増加傾向にある精神疾患合併妊娠についてはメンタルケアセンターとそれぞれ協同して診療にあたっています。

もちろんリスクの無い妊娠、出産も行っています。この場合は地域のクリニックの先生がたのご協力のもと、通常の健診は近隣のクリニックで行っていただくセミオープンシステムを採用しています。もちろんかかりつけのクリニックが休診の時や、健診受診中に何らかの心配事が見つかった場合などは当院で引き継いで対応しますのでご安心ください。問題がない場合は妊娠9か月以降から出産、産後まで当院で担当いたします。

また無痛分娩の要望の高まりを受け、昨年当院でも年間300件以上の実績を誇り、周産期専門医の資格を持つ麻酔科医師が主体となって行う麻酔管理の元で、無痛分娩を開始いたしました。ご希望される妊婦さんには、安全第一をモットーに行っております。出生前検査・診断についても臨床ゲノム遺伝センターと緊密に連携して診療にあたっています。

婦人科診療では従来からの子宮筋腫などに対する内視鏡手術に加え、さらに体に負担の少ないロボット手術も行っています。当院産婦人科では、安全で安心な医療を実行できるよう日々診療にあたっていますので安心して受診していただければ幸いです。



＜産婦人科 診療科長＞
＜市塚 清健 教授＞

- P1. 【巻頭言】—安全で安心な診療を目指して—
- P2～3. 【医学講座コーナー】前十字時じん帯損傷の治療
- P4. 【お知らせ】春期市民公開講座・消防訓練を実施しました
- P5. 患者さんからのご意見・ご要望
- P6. 【お知らせ】7月度がんサロン開催について・七夕の竹設置について
【編集後記】



【医学講座コーナー】前十字時じん帯損傷の治療

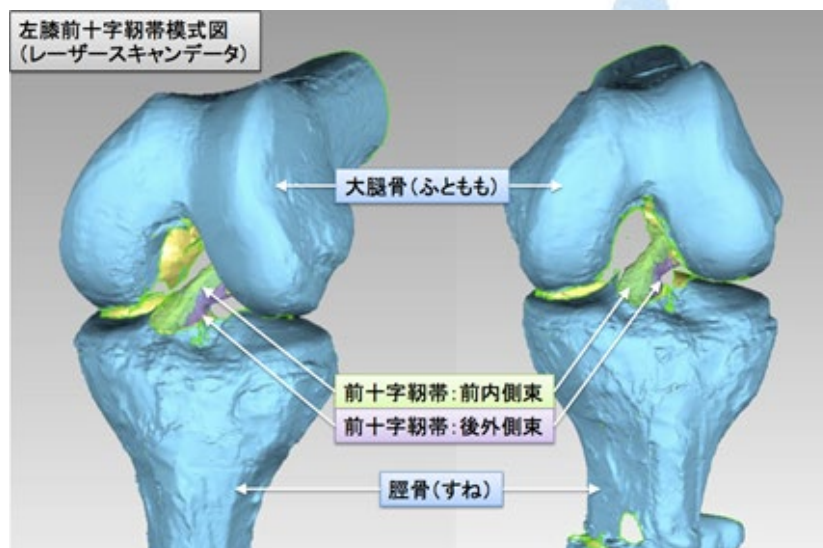
(整形外科 准教授 藤巻良昌)

前十字じん帯損傷

前十字じん帯損傷はスキー、バスケットボール、バレーボール、サッカー、ラグビー、アメリカンフットボールなど、『ジャンプ着地』・『急な停止や方向転換』・『他プレイヤーとの接触』などの動作が多いスポーツでよく起こります。スポーツによる膝の怪我の中では、手術が必要となることが最も多い外傷です。

前十字じん帯：ACL とは（解剖、構造、役割）

前十字じん帯は膝関節のほぼ中心に存在します。大たい骨（ふともも）と、けい骨（すね）をつなぎ、けい骨が過度な前方移動や回転をしないようにする役割を果たしています。



前十字じん帯損傷の症状

損傷時には『ブツッ』『グキッ』など断裂音とともに強い痛みを感じる事が多く、関節内出血により膝が腫れてきます。傷を負ってから3週程度で膝の痛みや腫れが引いてきて日常生活程度の動作には支障をきたさなくなることもあります。不安定さが残るとスポーツ活動は困難です。また歩き始めの不安感やガクッと膝がずれる感じが起こりやすくなるため、この状態を放置していると半月板や軟骨を損傷し、二次的な変形性膝関節症の原因となったりします。

診断、検査、治療方針

問診や患部と思われる部位を動かす徒手（としゅ）検査に加え、レントゲン、MRI 検査などを用いて、合併損傷などがないか慎重に検査を行った上で診断し、最適な治療方法を検討します。高齢の方や活動性の低い方には保存治療を選択することもあります。一般的には手術治療を選択します。

【医学講座コーナー】前十字時じん帯損傷の治療

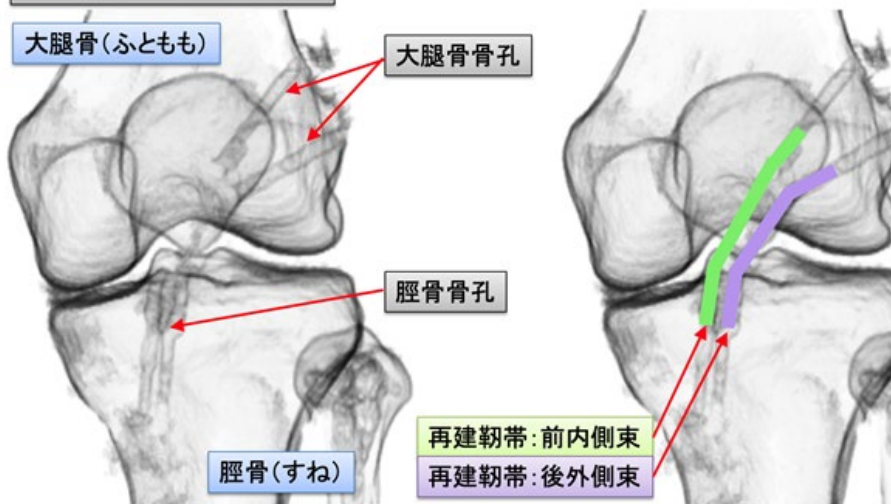
手術術式の紹介

(整形外科 准教授 藤巻良昌)

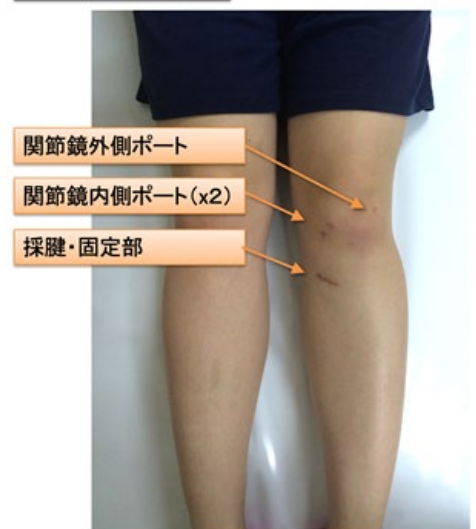
前十字じん帯は前内側線維と後外側線維という2つの成分から成っており、当科ではこれらの形を復元するように、ご自身の膝屈筋腱（膝を深く曲げるときに主に使われている筋・腱）を用いる“解剖学的二重束再建”を行っています。この手術では、大たい骨とけい骨の、もともとの前十字じん帯が付着していた位置の骨にそれぞれ穴を作成し、採取した腱を加工してそこに通すことでじん帯を再建します。場合によっては、しつがいじん帯（ももからひざのお皿の内側のじん帯）を採取して再建する方法もあります。

この手術では、主に関節鏡を用い、傷を小さく目立たないように工夫しています。

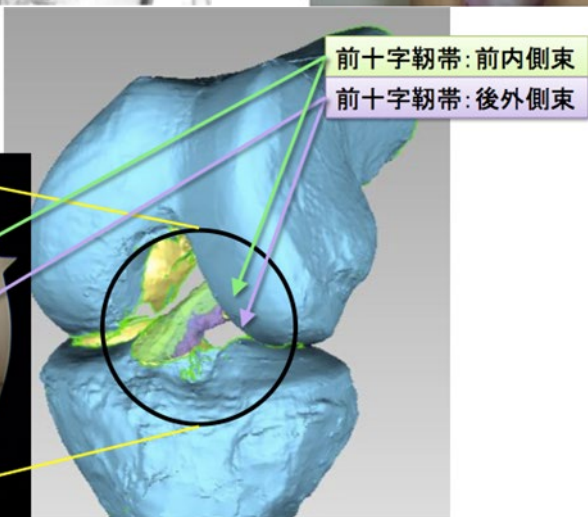
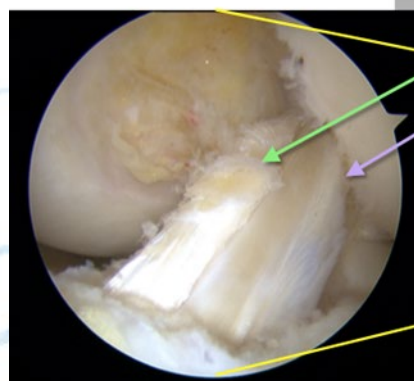
左膝前十字靭帯再建模式図
(透過3D-CTデータ)



術後の手術創の様子



左膝前十字靭帯再建術
(手術関節鏡画像)



術後のリハビリテーション

入院は約10日～2週間です。手術翌日よりリハビリテーションを開始し、3～4週で杖なし歩行、3ヵ月程度でジョギングを開始し装具も不要になります。一般のスポーツであれば6ヵ月程度での復帰を目指します。術後再断裂や再建じん帯の緩みを予防するため、激しい運動への復帰は8か月以降を推奨しています。前十字じん帯損傷を疑ったらまずは受診し、ご相談ください。

【お知らせ】春期市民公開講座を開催しました

5月20日（土）に市民公開講座を開催いたしました。今回の公開講座もオンライン開催となり、当日は約100名の皆様にご参加いただき、好評のうちに終了いたしました。ご参加いただいた皆様には、この場を借りて御礼申し上げます。

講演の録画は今後ホームページ及び下記YouTubeチャンネルにて公開予定でございます。

講演テーマ

第一部「前立腺がんってどんな病気？」

泌尿器科 富士幸蔵 教授

第二部「食は医なり」

栄養科 中田美江 管理栄養士

〈当院公式YouTubeチャンネル〉



左から

栄養科 中田美江 管理栄養士

泌尿器科 富士幸蔵 教授

眼科 藤澤邦見 教授（司会）

【お知らせ】消防訓練を実施しました

この度、コロナウイルス感染症のまん延により実地での開催を見合わせておりました、消防訓練を行いました。今回は、主に新入職員を対象に、職員が消火訓練や煙体験訓練に参加しました。

当院は災害拠点病院として引き続き災害対策に注力し、より質の高い医療を提供して参ります。

◆体験訓練（消火器）



◆体験訓練（煙ドーム）



患者さんからのご意見・ご要望

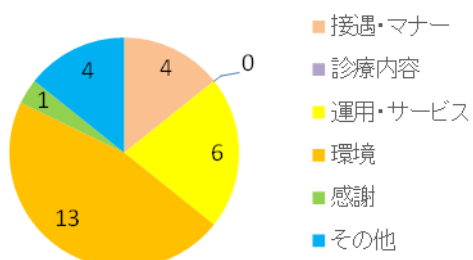
日々患者さんより、ご意見箱にいただきましたご意見・ご要望に関しましては、病院長及び関連する部署の責任者に報告し、改善に努めております。今までのご意見の中で多くいただいたものや最近のご意見・ご要望を中心に、改善策を掲載させていただきました。

掲載されていない内容についても別途対応しております。

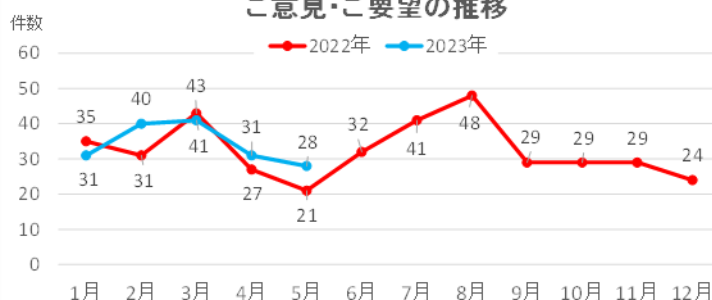
今後もお気付きの点やご要望をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。

ご意見・ご要望	回答・改善等
スマホ1人1台のこの時代にあって、フリーWi-Fiにしてほしい。 長期入院のため、とても不便。他の病院では取り入れている所も多い。	ご意見ありがとうございます。 Wi-Fiの設置につきまして、今年度中に実施する予定です。 今しばらくお待ちいただけますようお願いいたします。 (回答部署：管理課)
救急外来の処置ベッドにナースコールがなくて困りました。設置できないのであれば、せめて看護師が声をかけられるところにしてほしいです。	この度は不安な思いをさせてしまい誠に申し訳ございませんでした。 救急外来は、建物の構造的にナースコールの設置ができません。そのため、処置中の患者さんには「ワイヤレス呼び鈴」をお渡しして対応することにしております。 この度は、その「呼び鈴」をお渡しすることを失念してしまったと思われます。 今回のことを部署内で共有をし、スタッフ一同、再発防止に向けて徹底してまいります。貴重なご意見ありがとうございます。 (回答部署：看護部)
外来診療での順番待ちについて。 掲示盤の番号を見て入る仕組みですが、場所によって全く見れませんが、混雑時は離れている席から何回も掲示盤を見に行くのは難しいです。手元のスマホで確認できるようにするとか、別の機械を受付時に渡し、呼出し音などで中に入れるようにしていただくと大変助かります。	大変ご不便をおかけして申し訳ありません。 昭和大学の附属病院では、大切な患者さんの個人情報を守るため、電子カルテなどの内部のシステムは、外部システム(インターネット)と繋がらないようにしています。 そのため、携帯端末等への通知は現在検討しておりません。 ご不便をおかけし申し訳ございませんが個人情報保護のため、ご理解くださいますようお願いいたします。 (回答部署：医事外来課・医療情報室)

2023年5月
ご意見箱に投函された
ご意見・ご要望の総計28件



2022年・2023年
ご意見・ご要望の推移



【お知らせ】7月度 がん患者サロン「きぼう」



開催日時：7月20日（木）14：00～15：00（予定）

開催方法：中央棟9階会議室（オンライン参加可能）

ミニレクチャー：「治療による外見の変化

（脱毛、皮膚や爪の変化など）」

（申込方法については、右記QRコード

または 病院ホームページをご覧ください。）

お問い合わせ：中央棟1階100番

総合サポートセンター・がん相談支援センター

045-949-7000（代）

【お知らせ】七夕の竹を設置しました

中央棟1階ホスピタルストリートに七夕用の竹を設置しました。当院で毎年七夕に設置している竹は当院敷地内から切り出した「当院生まれ」の竹です。竹は冬の寒さにも強く、まっすぐ育つ生命力があることから、昔から「魔除け」の力があると考えられてきたそうです。

短冊を用意しておりますので、たくさんの「願い事」をお待ちしております。



編集後記

新型コロナウイルス感染症が5類感染症になり、制限の無い7月を迎え、これから楽しい夏本番です。

そんな暑さが本格的になる7月には土用の丑の日にうなぎを食べるという習慣があります。なぜ「土用の丑の日」にうなぎを食べるのでしょうか。諸説ありますが、江戸時代の学者平賀源内が、夏場苦戦していたうなぎ屋さんに（うなぎの旬は秋冬）、「本日土用の丑の日」とお店に貼り出すようアドバイスしたところ大繁盛。そこから始まったとか。

また、「丑の日」は災難を受けやすいと言われ、「丑」にちなんだ「う」のつく食べ物（うなぎ、うどん、梅）で縁起を担ぐ。丑の方角の守護神「玄武」が黒の神様である事にちなんで「黒い」食べ物（ドジョウ、シジミ、ナス、黒豆）で厄除けをする習わしがあったと言われています。いずれにせよ昔からの言い伝えに感謝しつつうなぎに舌鼓を打つのもいいですね。

疲れを吹き飛ばしましょう！7月の土用の丑の日は7月30日です。

（地域医療連携室 鈴木令子）



北部病院だより 第181号
2023年7月1日発行

発行責任者 門倉 光隆（昭和大学横浜市北部病院長）

編集責任者 緒方 浩顕（広報委員会 委員長）

発行 昭和大学横浜市北部病院

〒224-8503 横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1

電話 045-949-7000（代表）

URL：<https://www.showa-u.ac.jp/SUHY/>

北部病院ホームページにて最新・過去の『病院だより』がご覧いただけます。